品種改良で新しい米ができるまで

新しい米の品種は、どのようにして、何年もかけてつくられるのだろう

1 親にする稲を選ぶ

親A
寒さに強い稲

親B
味がよい稲

2 交配する（花の拡大）

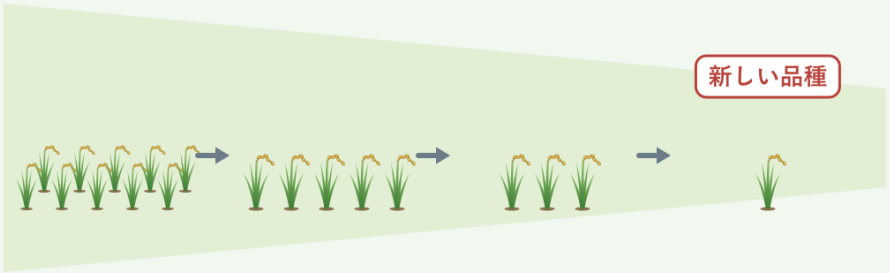


親Aのおしべは、先に取りのぞく

理科5年の「受粉」と同じしくみ

3 育てて、よい株を選ぶことをくり返す

年数は目安



交配でできた種をまいて育てる

よい性質の株を選び、また育てる

いろいろな土地の田でためす

新しい品種に名前がつく

ためすこと：病気になりにくいか・たおれにくいか・味・とれる量

だれが、なぜ何年もかけるの？

農業試験場などの研究所の人が中心になり、
農家の人と協力して、田でためしながら進める。

- 稲が実るのを待ってから選び、また育てる。
- よい性質がそろった稲になるまで、これを何回もくり返す。
- いろいろな土地や天気の年でもよく育つかを確かめる。

どんな願いにこたえるの？

つくる人（農家）の願い

育てやすい　病気やたおれに強い　暑さや寒さに強い

食べる人の願い

おいしい　安心して食べられる

※ 模式図。年数と株の数は目安・模式で、品種や研究所によってちがう。品種の名前は出していない。